

胎教のすすめ

こんなにすごい！ お腹の赤ちゃんの能力

外の音を聞いていて記憶しています

妊娠5ヶ月の頃から耳が聞こえるようになり、語りかけてあげたことや、聞かせてあげた歌などをちゃんと覚えています。

また2～3歳の頃、お腹の中にいた時のことを尋ねると、半数近くの子供が、話してくれます。

お母さんの気持ちがわかります

お母さんが嬉しいと胎児も嬉しい、お母さんが悲しいと胎児も悲しいというように、お母さんと喜怒哀楽をともにしていると言われています。

またお母さんが自分のことをどう思っているかがちゃんとわかっています。

お母さんがお腹の赤ちゃんのことを想っている時は、赤ちゃんも嬉しそう、お腹の赤ちゃんのことを忘れてしまうと、赤ちゃんはつまらなさそうなのです。

またお腹をたたくとけり返すというコミュニケーションができたり、「〇月〇日に生まれてきてね」という願いもちゃんと聞いてくれたりもします。



胎教ってどんな効果があるの？

子育てがしやすくなる

親は胎教をすることで、母性・父性が育ち、お腹の子どもへのいとおしさがつづります。

お腹の中からすでに、親子の気持ちが通い合い、親は子どもの気持ちがよくわかり子どもは親の気持ちがよくわかるので、子育てがとてもしやすくなります。

発育・発達が早い

胎教を受けた子は発育がよく、ハイハイをしたり歩き出したりするのが早いです。

言葉の発達が早く言語能力の高い子に育ちます。

学習や習い事を始めても、上達がとても早いのでまわりを驚かせることがよくあります。

性格のいい子に育つ

子どもは親に愛されていることが実感でき、満ち足りた幸せな気持ちになるので、円満な人格の性格のいい子に育ちます。



胎教講座のご案内

妊娠期間中の過ごし方や、お腹の赤ちゃんへの働きかけについて学べる胎教講座を実施しています。（お申し込みは受付まで）

日 時	4月 8日（日）	9時～10時30分
	5月13日（日）	9時～10時30分
	6月10日（日）	9時～10時30分

対 象：江川産婦人科医院にて分娩予定の方

講 師：藤森勝己 費 用：無料 会 場：セミナールーム

胎教ってどんなことをするの？

常にお腹の赤ちゃんのことを想って過ごす

お腹の赤ちゃんへの最高のプレゼントは、常にお腹の赤ちゃんのことを想ってあげることです。お母さんが、お腹の赤ちゃんのことを思っている時、赤ちゃんは嬉しそうな表情で、動きも活発になり、心拍数も安定しています。

また胎児はお母さんの気持ちがよくわかります。親から待ち望まれて生まれてくる子は、ちゃんとそれがわかり、幸せな胎児期を過ごし、明るい円満な性格の子に育ちます。

お母さん自身が幸せな気持ちで過ごす

お母さんが嬉しいとお腹の赤ちゃんも嬉しいのです。反対に、怒ったり、心配したり、不安を感じたりすると、赤ちゃんも表情が険しくなり、心拍数もあがります。

妊娠期間中は、お母さんがいらいらしたり、怒ったり、心配したりすることなく、楽しく幸せな気持ちで過ごすようにしましょう。

語りかけをしてあげる

お腹の赤ちゃんは、お母さんに語りかけてもらうのを心待ちにしている、「聞き耳をたてている」と言われています。

語りかけなどの働きかけをしてもらうのが、とても嬉しいのです。

お腹の赤ちゃんは5ヶ月の頃から耳が聞こえるようになり、語りかけてもらったことは、ちゃんと覚えています。

お腹の中から語りかけをしてあげると、生まれてから言葉の発達がとても早く、早い時期から言葉によるコミュニケーションができるようになります。

あいさつをする

「おはよう よく眠れた？」
「今日も一日楽しく過ごそうね」

お母さんの気持ちを伝える

「〇〇ちゃんに早く会いたいな」
「今日はいい天気で気持ちがいいね」

お母さんのしていることを説明してあげる

「今お料理をしているのよ」
「今からお出かけしようね」

目にするものを説明してあげる

「きれいな花が咲いているね」
「これは、りんごって言うのよ」
「〇〇ちゃんも、大きくなったら食べようね」

音楽を聞かせる

お腹の中から音楽を聞いて育った子は、音感の優れた音楽センスの高い子、語彙が豊富で、言葉の発達の早い子になります。

お腹の中で聞いた音楽はちゃんと覚えていて、生まれてから聞くと嬉しそうにしたり、泣いていても泣き止んだりします。

クラシック音楽

CDを聞きながら、お母さんがハミングすると、赤ちゃんに伝わりやすいです。

童謡

お母さんが歌ってあげたり、CDを聞いたりしましょう。

本を読んであげる

お腹の赤ちゃんは、本を読んでもらうのも好きで、くりかえし読んでもらった本は覚えています。

本を見ながら、絵の説明などをしてあげると語りかけもしやすくなります。

